



## 2.2

5歳未満の子供の発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対応を行う。

田中 順子  
歯学部  
有歯補綴咬合学講座

# 低栄養の高齢者に「栄養改善プラン」を提案し、 食べることを支援する

高齢者の栄養状況と残存歯数や歯科補綴装置の種類等の関連を調べています。軽度認知症の高齢者が食形態の違いによって、食事に興味を持ったり、食量が増えたりなど、意思疎通の難しい人の低栄養の予防に努める研究を行っています。

要介護者は唾液量の分泌が低下したり、口腔内の噛める領域が狭くなったり、口腔周辺の筋力や舌運動、嚥下反射の低下など、食事に多くの問題が発生します。要介護度が重度に進行してしまっただけでは、機能の回復や維持が難しくなります。高齢者が自立して自分らしく生活することに食生活の影響は非常に大きいものです。軽度の段階で重度に移行させないように進行予防につなげます。



### message

認知機能が低下した高齢者は低栄養に陥りがちですが、食べることで体力、精神共に元気になっていきます。歯科治療、口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーションなど予防重視型の栄養改善プランの確立や高齢者の食事に対する興味を視覚的に調べる研究で健康寿命の延伸に貢献します。